

# 目 次

はじめに	2
<b>I 昭和61年度 管理運営概要</b>	
1. 組 織	3
2. 予 算	4
3. 事業計画	5
<b>II 昭和60年度のあゆみ</b>	
1. あゆみと日誌抄	6
2. 入館状況	9
3. 常設展 刀剣コーナー	10
スタディ・コーナー	
自然展示室2	11
4. 特別展	
(1) 濃飛の縄文時代	12
(2) 鉾物の世界	13
(3) 美濃の刀剣	15
5. 資料紹介展	
(1) ふるさとの魚	17
(2) 古式鉄砲	18
6. 資料調査収集活動	
(1) 人文部門	19
(2) 自然部門	21
7. 教育普及活動	23
8. 図書資料寄贈者芳名一覧	26

## は　じ　め　に

岐阜県博物館は、置県100年を記念し、県下唯一の総合博物館として、昭和51年5月開館以来、本年5月5日をもって、10周年を迎えました。

入館者は、昨年10月末に待望の100万人をこえました。これもひとえに、当博物館に対する県民の皆さまのご理解と関係者の皆さまのご協力やご指導により、資料収集・調査研究・資料展示・教育普及などの事業活動を積極的に展開することができた賜物と、心から感謝し、厚くお礼申し上げます。

60年度は、自然展示室2の一部改装により、展示資料の充実をはじめ、館内外の整備を図りましたほか、県民の皆さまから多くの貴重な資料の寄贈を受け、館蔵資料の充実を図ることもできました。

また、当博物館の事業活動にご協力願っております岐阜県博物館友の会は、最近の会員増加にともない、組織の拡充や事業活動の拡大に努められ、今後の活動が期待されます。

一方、春の「濃飛の縄文時代」、夏の「鉱物の世界」、秋の「美濃の刀剣」の各特別展は、いずれも格別の好評をえましたが、資料紹介展の「ふるさとの魚」「古式鉄砲」は、望外の好評をえ、同展のあり方に貴重な示唆をいただきました。

現下の社会的課題であります生涯教育の推進、余暇時間の活用、高齢者の生きがい対策などの対応の場として、博物館活動が重視されておりますなかで、私ども館員一同は、あらゆる面にわたって、一層の創意工夫をこらし、「やすらぎのなかで楽しく学ぶ」博物館づくりに努力いたしているところであります。

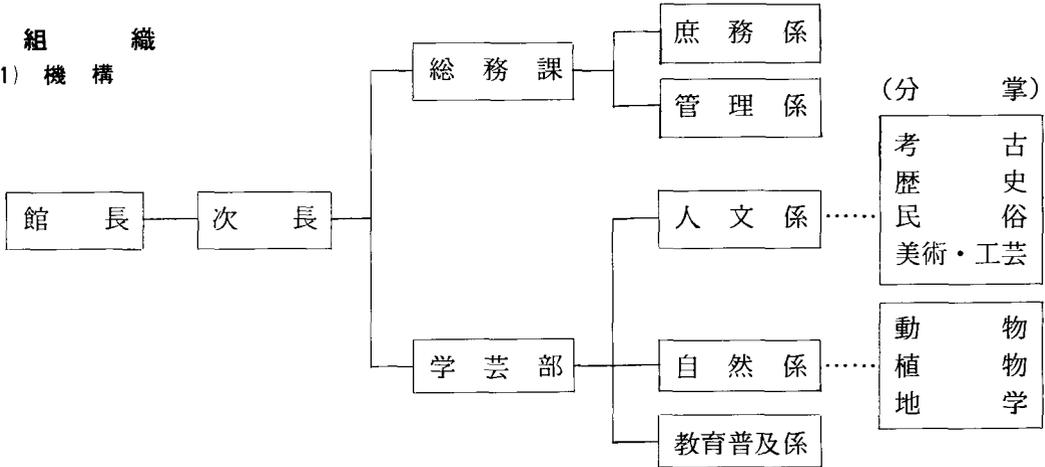
ここに、岐阜県博物館報第9号をもって、昭和60年度の事務事業の状況をご報告し、今後とも格別のご指導、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

昭和61年7月1日

岐阜県博物館長 廣田照夫

# I 昭和61年度 管理運営概要

## 1. 組織 (1) 機構



## (2) 職員

昭和61年4月1日現在

職名	氏名	職名	氏名
館長	廣田 照夫	学芸部	
次長	野々田 幸雄	学芸部長	山田 康夫
○ 総務課		主任学芸主事兼人文係長	大前 匡昭
課長	海老澤 吉郎	学芸主事	平田 公二
庶務係長	尾野 元啓	"	名和 正浩
主任	川端 正	"	尾関 章
技師	山口 弘子	"	小川 和英
主任技師	林 作男	主任学芸主事兼自然係長	中野 敬一
主任主査(兼管理係長)	吉原 敏彦	学芸主事	國光 正宏
主任主査(兼業務嘱託員)	伊藤 武嘉	"	小森 廣光
"	成瀬 清美	"	安藤 志郎
"	鈴木 智子	学芸嘱託員	鈴木 功
"	青山 貴子	教育普及係長	石田 興
"	古田 佳子	教育主事	今井 雅巳
"	池村 清美	学芸嘱託員	大沢 淳一
"	山口 誉理子	"	青木 修

### (3) 博物館協議会

当協議会は、博物館の運営に関し、館長の諮問に応じ、又は意見を述べる機関として、岐阜県博物館条例（昭和51年）第2条の規定に基づいて設置され、委員は次のとおりである。

昭和61年5月15日現在

氏名	住所	現職
林 金 雄	各務原市那加雲雀町 37-2	岐阜大学名誉教授
土 屋 齊	大垣市荒尾町 1077	㈱大垣共立銀行取締役頭取
坂 倉 又 吉	羽島市竹鼻町 2733	千代菊㈱取締役社長
溝 脇 昭 人	岐阜市鷺山 2563	岐阜日々新聞社論説委員
野 村 忠 夫	稲沢市下津町東国府34	岐阜大学教育学部教授
富 成 侑 彦	岐阜市西野町 5-45	岐阜県高等学校長協会会長
牧 野 潔	岐阜市梶川町 7	岐阜県中学校長会会長
近 藤 良 夫	岐阜市加納天神町 1-18	岐阜県小学校長会会長
片 桐 孝	岐阜市五坪町1450コーポ田神E-107	岐阜県私立中学高等学校協会会長
二 俣 潔	岐阜市鷺山 2563-40	岐阜県公民館連合会会長
篠 田 薫	岐阜市粟野西 1-10	かぐや第三幼稚園副園長

## 2. 予 算

当初予算額（単位 千円）

区分	区 分	年度	昭和58年度	昭和59年度	昭和60年度	昭和61年度
歳入	博物館使用料 諸 収 入		11,023	9,140	9,664	9,530
			281	308	319	300
		合 計	11,304	9,448	9,983	9,830
歳出	博管理 物運 管 宮 館 費	運 営 費	26,745	25,026	26,508	30,453
		施 設 管 理 費	80,068	86,193	81,761	83,609
		博物館協議会費	284	284	284	308
		計	107,097	111,503	108,553	114,370
	博物館 事業 費	常 設 展 示 費	19,729	15,079	23,279	37,379
		特 別 展 示 費	6,500	7,000	7,000	10,000
		資 料 収 集 管 理 費	1,300	1,300	1,300	1,940
		教 育 普 及 活 動 費	2,300	2,300	2,400	2,400
		調 査 研 究 費	600	600	600	600
		計	30,429	26,279	34,579	52,319
合 計		137,526	137,782	143,132	166,689	

### 3. 事業計画

#### 展示活動

	期 間	主 な 展 示 内 容	
常 設 展		1階自然展示室は郷土の自然、2階人文展示室は、郷土のあゆみと美術工芸を展示。 刀剣コーナーは年4回展示替え。	
(特別展) 徳山の四季とくらし ( " ) 奥飛騨の自然 ( " ) ふるさとの祭り	4/23~6/8 7/23~9/15 10/8~11/24	ダム建設により湖底に沈もうとしている徳山村の自然と人々のくらしを紹介 笠ヶ岳連峰を中心に奥飛騨の自然を総合的に紹介 10周年記念展として、ふるさとに伝わるさまざまな祭りを紹介	
(資料紹介展) 山の道具―焼き畑― ( " ) 岐阜県のシダ植物	12/16~2/1 2/24~4/5	県内に残る焼き畑の道具を中心に、山のくらしを紹介 岐阜県内に生育しているさまざまなシダ植物を紹介	
移 動 展	10/26~11/3 11/5~11/16	古川町立図書館 下呂町峰一合遺跡考古館	押し葉標本、剥製標本、写真などでふるさとの植物と動物を紹介。

#### 教育普及活動

	期 日	対 象	定 員	内 容
講 演 会	5/3	一 般	150	「わたしの徳山」 写真集「故郷」の著者 増山たづ子氏
	8/10	"	"	「奥飛騨の山々を語る」 山岳写真家・山小屋経営者 小池 潜氏
	10/26	"	"	「岐阜県の祭り」 岐阜大学 助 教 授 伊東 久之氏
博 物 館 教 室	5/5	一 般	40	ふるさとの人シリーズ① 自由民権運動家 小池 勇
	25	"	100	「徳山村の民具」 日本民具学会会員 脇田 雅彦氏
	6/1	一般 固定	30	やさしい植物学の入門講座Ⅰ 植物の世界
	8	小学生以上	40	弥生時代のくらし
	22	一 般	40	ふるさとの人シリーズ② 近代史学の確立者 津田左右吉
	7/20	一般 固定	30	やさしい植物学の入門講座Ⅱ 植物の分類
	24	親	50	小中学生をもつ親の科学教室(夏休みの研究についてのアドバイス)
	8/2	小学生以上	80	笠ヶ岳の自然シリーズ(1)おいたち
	3	"	100	「高山にすむチョウ(奥飛騨の昆虫)」 昆虫分布研究会 西田 真也氏
	9	"	80	笠ヶ岳の自然シリーズ(2) 植生
	16	"	80	笠ヶ岳の自然シリーズ(3) 動物
	23	"	80	笠ヶ岳の自然シリーズ(4) 昆虫
	31	一般 固定	30	やさしい植物学の入門講座Ⅲ 岐阜県の植物社会
	9/14	小学生以上	30	古生代の化石(フリズナ化石の観察)
	21	一 般	40	治水と輪中
23	小学生以上	100	「ふるさとの大地をつくる岩石」 岐阜工業高校教頭 笠原 芳雄氏	
28	"	30	昆虫観察のおもしろさ	
10/10	一般 固定	30	やさしい植物学の入門講座Ⅳ 植物観察のおもしろさ	
19	一 般	100	「くらしの中の植物」 井波植物研究所所長 井波 一雄氏	
11/2	"	40	ふるさとの人シリーズ③ 人間愛の刑法学者 牧野 英一	
9	"	40	年中行事(祭り)	
16	"	100	「美濃市の祭り」 美濃市文化財を守る会理事長 内木 茂氏	
自 然 観 察 会	4/20	小学生以上	30	百年公園の早春の花
	27	"	30	春の昆虫(ギフチョウの生態)
	29	"	30	津保川の石ころしらべ
	5/18	"	30	百年公園の新緑とつじ
	6/15	"	30	津保川の水生昆虫
	29	"	30	百年公園のトンボ
	7/26・27	親 と 子	50	北アルプス笠ヶ岳山麓の自然
	9/15	小学生以上	30	津保川の水辺植物
11/2	"	30	秋に鳴く虫	
30	"	30	百年公園の樹木	
親 子 教 室	7/6	親 と 子	40	切り絵あそび
	13	"	40	拓本をとろう
	8/17	"	40	火おこし器をつくろう
	24	"	40	竹 細 工
	12/7	"	40	版画あそび
	14	"	40	しめなわづくり
21	"	40	風づくり	
民 俗 芸 能 実 演	5/11	一 般	-	関孫六太鼓
	10/12	"	-	金蔵獅子(国府町)
	19	"	-	郷土の太鼓と芸能まつり(中濃地方を中心に)
	11/3	"	-	真桑文楽(真正町)
24	"	-	杵振踊(乾川村)	
ふるさと探訪	10/5	一 般	40	ふるさとの自然を訪ねて(苗木地方の植物・鉱物)
	11/23	"	"	ヒンコ祭りを訪ねて(美濃市大矢天神社)
自然スタディ・コーナー	2ヶ月ごとに展示替え	入館者		白亜紀の植物化石(3・4月)、身の回りの鳥(5・6月)、川原の植物(7・8月)、海 でできる石(9・10月)、帰化動物(11・12月)、帰化植物(1・2月)、古生代の化石(3・4月)
ふるさと写真展	4/23~6/8 10/8~11/24	一 般	入館者	徳山の四季とくらし } 一般公募作品展 ふるさとの祭り }
日 曜 映 写 会	4/23~6/8 7/23~9/15 10/8~11/24	一 般	入館者	「ふるさと徳山」 16mm、VTR 「笠ヶ岳の四季」 スライド 「ふるさとの祭り」 16mm

## Ⅱ 昭和60年度のあゆみ

### 1. あゆみと日誌抄

当博物館は、県下唯一の総合博物館として10年を経過した。60年10月には、入館者も希望の100万人を突破し、その役割と使命はますます重要である。

岐阜県内の博物館あるいは博物館類似施設は、全国各県に比べると多く、規模や機能は多種多様であり、折角の施設を十分活かすことが必要である。そのためには、博物館関係者の資質の向上はもとより、博物館活動が広く認識され、博物館を気軽に利用し、学習ができるよう、啓発と、併せて展示の内容や催し物の企画を充実して博物館を魅力のあるものにならなければならない。

当館としては、博物館運営の基本方針〔1、資料の充実整備、2、展示構成の充実、3、特別展の質的向上、4、調査研究の推進、5、教育普及活動の拡充〕に沿って本年度も鋭意努力を重ねてきたところである。

特に常設展示資料のなかには、一部長い年月の間に鮮度を喪失したものも見受けられ、展示構成についても、現代に即応したものへと転換をせまられていた。また、こうした状態は、当館の利用状況にも大きな影響を及ぼしている。

このため、本年度は、自然展示室2を一部パネル展示から立体的展示へ改装して魅力ある博物館に整備充実をした。これは、コーナー別に展示していた「県の木：イチイ、花：レンゲソウ、鳥：ライチョウ」を県のシンボルとして一階ロビーにジオラマ展示をし、またパネル展示中心の「鳥獣の保護」コーナーの充実を図り、さらに、入れ替え可能な展示として、新たに「ふるさとの昆虫」「ふるさとの草や木」「ふるさとの魚」の3つのコーナーを設けた。

本年度の特別展は、「濃飛の縄文時代」「鉱物の世界」「美濃の刀剣」である。春の「濃飛の縄文時代」は、縄文時代の美濃と飛騨の暮らしを土器や石器などの出土品を中心に紹介したも

ので、小学生の学習教材としても大いに役立ち、国立民族学博物館の小山修三助教授の「縄文時代の食生活」と題する講演も行った。夏の「鉱物の世界」は、未来をひらく鉱物をサブテーマとして鉱物の結晶標本、模型等を通してその特徴や社会生活とのかかわりを紹介し、日本地学研究会館益富寿之助館長を講師として講演会を開催した。秋の「美濃の刀剣」は赤坂鍛冶、関鍛冶の作品を中心に美濃伝の系譜を紹介し、地元関市とのかかわりが深いので多くの人々が観覧した。期間中には、日本美術刀剣保存協会の加島進常務理事による講演を行った。

そのほか、資料紹介展は、冬には生息場所を中心とした県内産魚類の展示とともに、魚法や魚の方言などを紹介した「ふるさとの魚」展を、春には古式鉄砲（火縄銃）の歴史的意義と美術工芸品としての価値を紹介した「古式鉄砲」展を開催した。これらは、当館職員による手づくり資料展である。なお古式鉄砲展の期間には、火縄銃の実演が百年公園で行われた。

調査研究は、笠ヶ岳の自然調査と、信仰と民俗芸能との相関関係調査を実施した。61年3月には、こうした事業に伴うものや、学芸主事の研究結果をまとめた「岐阜県博物館調査研究報告書」第7号を発行した。

教育普及活動として、移動展「ふるさとの植物とほ乳動物」を海津町中央公民館と岩村町公民館で開催した。そのほか根尾村の昆虫と植物を調べた自然観察会や、長良川沿いの地質めぐり、また関市の刀匠、研師を訪ねた移動教室を館外で実施し多数の参加者があった。館内では、自然、人文の博物館教室や、切り絵、竹細工、版画あそび、しめなわづくり等の親子教室を開いた。こうした事業の参加者を増やしながら、博物館活動の活性化へと結びつけていくことが肝要であり、また課題でもあるので普及活動の啓発に努力した。

資料は、60年度末現在46,042点であり良好な保存に努めた。

最後に、本年度の入館者数は、79,537人（小中高生54%、団体39%）であり、このうち特別展期間中に入館者は、56,593人（総入館者の71%）であった。

## 日誌抄

### 人事異動

退職	館長	関谷美智男
	主幹兼総務課長	西村 義郎
転出	学芸部長	川崎 立夫
	主任学芸主事兼自然係長	富田 保男
	人文係長	増田 義明
	教育普及係長	中島 良太
	主任学芸主事	笠原 芳雄
	主 事	早川 つな
転入	館長	廣田 照夫
	学芸部長	山田 康夫
	総務課長	海老澤吉郎
	主任学芸主事兼自然係長	中野 敬一
	主任学芸主事兼人文係長	大前 匡昭
	教育普及係長	石田 興
	学芸主事	國光 正宏
	主 任	山口 弘子
新任	業務嘱託員	古田 佳子

4. 1 「博物館だより」第26号発行
- 17 法華経奇贈（永保寺）にかかる感謝状贈呈
- 23 特別展「濃飛の縄文時代」開幕  
（6月9日まで）
- 24 移動展「ふるさとの植物とほ乳動物」  
（海津町中央公民館 5月9日まで）
- 28 自然観察教室「百年公園の植物しらべ」
5. 5 民俗芸能実演「関孫六太鼓」  
「わらべ歌と民謡」
- 8 「走る県政バス」来館
- 9 岐阜県博物館協会総会
- 10 四館連絡会議
- 12 講演会「縄文時代の食生活」
- 〃 岐阜県博物館協会セミナー
- 〃 岐阜県博物館友の会総会
- 19 自然観察教室「百年公園の昆虫しらべ」
- 20 全館害虫駆除消毒
- 26 人文教室「アフリカ旧石器時代の文化」

6. 2 親子考古教室「縄文時代のまつり」
- 4 オーストラリア交換留学生来館
- 6 福岡市教育委員会文化課職員来館
- 9 歴史教室「岐阜県の人物 永田佐吉」
- 16 岐阜県博物館友の会西濃の寺社めぐり
- 23 自然教室「濃飛平野のおいたちをさぐる」
7. 1 「博物館だより」第27号発行
- 〃 「岐阜県博物館報」第8号発行
- 7 親子手づくり教室「切り絵」
- 10 夏休み研究相談室開設（7月25日まで）
- 14 自然観察教室「植物画を楽しもう」  
特別展「鉱物の世界」開幕  
（9月8日まで）
- 24 岐阜県博物館協議会
- 27.28 自然観察会「根尾村の自然観察」



- 31 「走る県政バス」来館
8. 9 移動展「ふるさとの植物とほ乳動物」  
（岩村町公民館 8月22日まで）
- 〃 東海北陸県議会事務局長会議一行来館
- 11 講演会「石の話」
- 12 全館害虫駆除消毒
- 18 親子考古教室「火おこし器をつくろう」
- 19 岐阜県教育委員来館
- 20 岐阜県博物館協会セミナー
- 23 兵庫県博物館職員来館
- 〃 中部圏開発整備地方協議会一行来館
- 25 親子手づくり教室「竹細工」
- 〃 夏休み研究相談室開設（8月30日まで）
9. 22 自然観察教室「百年公園の昆虫しらべ」
- 23 岐阜県博物館友の会中濃の自然めぐり

- 9. 25 九州地区開発推進協議会一行来館
- 27 全国高校生物研究会一行来館
- 29 歴史教室「岐阜県の人物 浅見与一右衛門」
- 30 業務嘱託員蔦木伸子退職
- 10. 1 業務嘱託員池村清美新任
- 〃 ふるさと写真展「ふるさとの自然」  
(12月1日まで)
- 〃 「博物館だより」第28号発行
- 6 自然移動教室「長良川沿いの自然を訪ねて」
- 8 特別展「美濃の刀剣」開幕  
(11月24日まで)
- 13 自然教室「サルの来た道」
- 15 アジア諸国社会福祉専門家研修生来館
- 〃 鹿児島県歴史資料センター黎明館職員来館
- 20 民俗芸能実演「関孫六太鼓」
- 24. 25 三県博物館協会交流研究会
- 25 鹿児島県教育庁主幹来館
- 30 東海北陸ブロック教育委員協議会一行来館
- 〃 日本観光協会事業課長来館
- 31 入館者100万人目記念品贈呈



- 11. 3 人文移動教室「刀匠、研師を訪ねて」
- 10 講演会「美濃の刀剣」
- 〃 岐阜県博物館友の会臨時総会
- 17 自然教室「花の話」
- 〃 岐阜県博物館協会セミナー
- 23 中国永住帰国者懇談会一行来館
- 24 自然観察教室「身のまわりの薬草」

- 11. 24 人文教室「江戸時代の工業」
- 29 愛知県南知多教育委員会一行来館
- 12. 1 親子手づくり教室「版画あそび」
- 4 鳥羽水族館職員来館
- 8 歴史教室「岐阜県の人物 西脇秀挺」
- 15 親子手づくり教室「しめなわづくり」
- 〃 資料紹介展「ふるさとの魚」  
(61年2月11日まで)
- 19 栃木県立博物館管理部長来館
- 20 自然展示室2の整備完了
- 23 全館害虫駆除消毒
- 61年
- 1. 7 三重県立美術館長来館
- 16 福井県立博物館副館長来館
- 22 中国成都電訊工程学院副学長一行来館
- 30 全館消防訓練
- 2. 4 岐阜県博物館協会セミナー
- 13 県内産品類標本寄贈(東山 熙)への感謝状贈呈
- 21 岐阜県博物館協議会
- 27 神奈川県立博物館学芸部長来館
- 28 業務嘱託員各務章子退職
- 3. 1 北九州市自然史博物館副館長来館
- 2 資料紹介展「古式鉄砲」  
(4月6日まで)
- 6 新潟県自然科学館主任展示専門員来館
- 9 民俗芸能実演「古式鉄砲(火縄銃)」



- 10 鹿児島県黎明館館長来館
- 13 和歌山県立自然博物館学芸課長来館
- 17 全館害虫駆除消毒
- 23 岩手県立博物館職員来館
- 31 「岐阜県博物館調査研究報告」第7号発行

## 2. 入館状況

今年度は、入館者総数79,537人、前年度とはほぼ同じであった。

また、開館日数は301日であり、1日平均の入館者は264人であった。

月別の入館状況は下表のとおりであり、春期の4月と5月、秋期の10月と11月の4か月で全体の約61%を占めている。

また、1日の入館者が多い日は4月から5月にかけてのゴールデンウィークに集中し、特に5月5日には1,923人を数えた。

なお、10月31日には開館以来100万人を突破している。

団体入館者をみると、337団体、31,124人で年間総数の約39%にのぼり、月別では10月が最も多く、団体入館者総数の約33%を占めている。

さらにこれを県内、県外別にみると、県内が244団体、19,596人で全体の約63%を占め、県外では愛知県が圧倒的に多く、87団体、11,118人で全体の約36%を占めている。

特別展の入館状況については、通算開催日数は132日、入館者数は56,593人であり、1日平均429人であった。これを入館者総数からみると約71%にのぼり、特別展への関心の高さがうかがえる。

### (1) 博物館入館者数

月別	小中生	高大生	一般	計	開館日数	1日平均
4月	3,276人	792人	3,544人	7,612人	26日	293人
5月	6,593	2,853	5,399	14,845	27	550
6月	1,352	302	3,075	4,729	26	182
7月	1,273	184	1,984	3,441	26	132
8月	2,743	300	3,440	6,483	27	240
9月	2,391	440	2,822	5,653	25	226
10月	10,344	1,139	4,636	16,119	26	620
11月	5,116	159	4,775	10,050	26	387
12月	296	45	736	1,077	22	49
1月	738	64	1,580	2,382	22	108
2月	560	94	1,647	2,301	23	100
3月	1,513	165	3,167	4,845	25	194
合計	36,195	6,537	36,805	79,537	301	264

### (2) 特別展期間中の入館者数

特別展名	期間	小中生	高大生	一般	計
濃飛の縄文時代	60. 4. 23～60. 6. 9	9,475人	3,537人	8,524人	21,536人
鉱物の世界	60. 7. 16～60. 9. 8	4,246	468	5,553	10,267
美濃の刀剣	60. 10. 8～60. 11. 24	14,752	1,267	8,771	24,790
合	計	28,473	5,272	22,848	56,593

### 3. 常設展

#### (1) 刀剣コーナー

当館では、人文展示室Ⅱに刀剣コーナーを設け、美濃の刀剣を中心に展示している。ご来館いただく皆様により多くの作品をみていただけるよう年4回の展示替えを行っている。昭和60年度の年間展示資料は下記の通りである。

第 1 期	第 2 期	第 3 期	第 4 期
4月23日～8月11日	8月13日～9月23日	10月8日～11月24日	12月3日～4月20日
刀 無銘志津 刀 無銘直江志津 刀 銘濃州赤坂住兼元 脇指 銘和泉守兼定 短刀 銘兼房 刀 銘兼先 槍 銘相模守藤原政常 太刀 銘長谷部国信	刀 無銘志津 刀 無銘直江志津 短刀 銘兼直 太刀 銘兼光 刀 銘濃州赤坂住兼元 脇指 銘和泉守兼定 短刀 銘濃州関住兼房 脇指 銘丹波守吉道	特別展「美濃の刀剣」として公開。 展示資料一覧は、P16を参照。	刀 無銘志津 刀 無銘直江志津 太刀 銘兼光 刀 銘兼基 刀 銘濃州赤坂住兼元 脇指 銘和泉守兼定 槍 銘相模守藤原政常 太刀 銘長谷部国信

#### (2) スタディ・コーナー

動物・植物・地学の各分野毎に輪番で、学芸活動のさやかな発表の場として、手づくりのミニ資料紹介展の意味をも含めて、小さなテーマを設定し館蔵収集資料を紹介する。

「ふるさとの第3紀」……………3～4月

現在のは乳動物の祖先が活動した時代について、郷土産の各種化石によりその特徴を紹介。

「ニホンカモシカ」……………5～6月

現在問題となっているカモシカの剥製・骨格標本及び内臓の液浸標本、血管標本など主として体内の構造を実物で紹介。

「ブナ林の世界」……………7～8月

日本を代表する夏緑樹林ブナ林、日本海側の特徴をもつ岐阜県のブナ林に生育する植物の代表種を標本で紹介。

「海でできた石」……………9～10月

海でできた石のうち“その1”として石灰岩を取り上げ、そのでき方、化石を含む石灰岩、石灰岩の利用について紹介。

「ほ乳動物の体のつくり」……………11～12月  
ほ乳動物の頭骨を中心として、全身骨格や剥製標本を展示し、ほ乳動物のからだのつくりのちがいを紹介。

「照葉樹林の世界」……………1～2月  
金華山・鶴形山で代表される照葉樹林、樹林を構成するツブラジイをはじめ常緑樹を中心に標本と写真で紹介。

「白亜紀の植物化石」……………3～4月  
中生代後半に岐阜県北部が湖であった頃の代表的な植物化石（大野郡荘川村尾上郷の手取植物化石）を紹介。

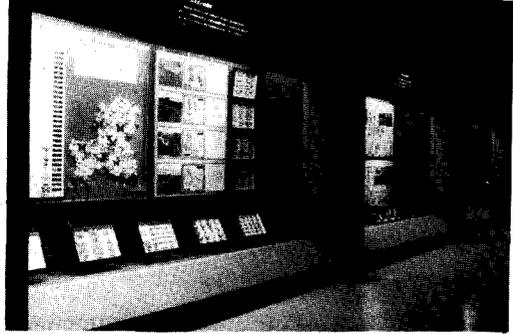


### (3) 自然展示室2の整備充実

開館以来10年を経過し、時代に即応した展示とするため、昭和60年度は「自然展示室2」の一部を整備充実した。

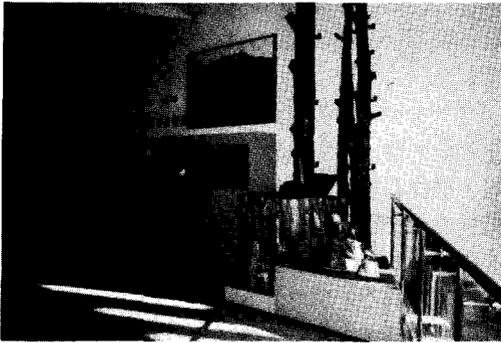
新展示資料は、その殆んどが学芸職員等による採集、同好者による寄贈によって収集されたものである。

旧コーナー名	新コーナー名
県の木イチイ	県のシンボル
県の花レンゲソウ	鳥獣の保護
県民の鳥ライチョウ	ふるさとの昆虫
鳥獣の保護	ふるさとの草や木
雪と生活	ふるさとの魚



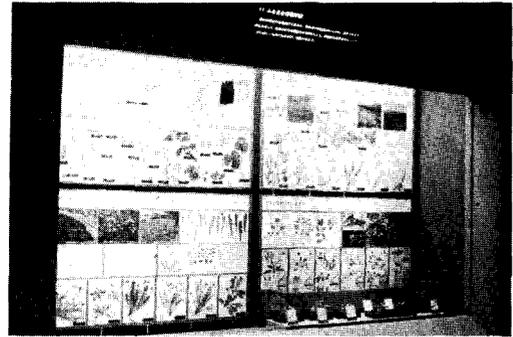
### III 「ふるさとの昆虫」

昆虫の系統、県内産昆虫地図（標本）、高山・森林・草原・人里の各々に生息するチョウ、昆虫テーマ展示（現在は「岐阜県のガ」）。



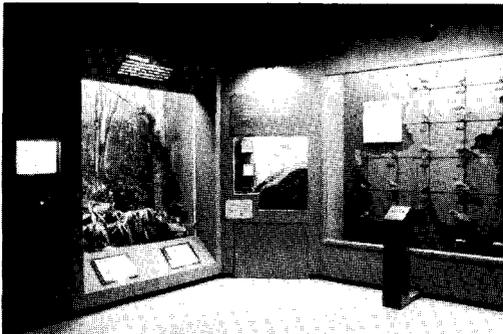
### I 「県のシンボル」コーナー

県の木イチイは木幹標本と一位一刀彫、県の鳥ライチョウは夏羽・冬羽等の剥製標本と巣・卵など、県の花レンゲソウは複製標本。



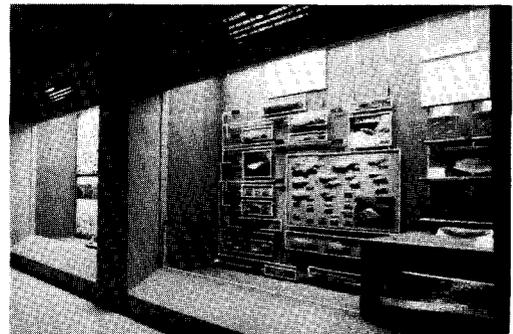
### IV 「ふるさとの草や木」

人里の植物、山を登る人里植物、タンポポのふしぎ、スマレを知っていますかの4テーマ。スマレはその6種を複製標本による展示。



### II 「鳥獣の保護」

「野生動物と保護」（キツネ・テン・ノウサギ）のジオラマ、「鳥の役割」は草や木と鳥や虫の関係、「ふるさとの野鳥」20羽の剥製標本。



### V 「ふるさとの魚」

県内産魚類の剥製標本による分類展示。液浸標本によるテーマ展示（現在は帰化魚）。水槽には、身近かな淡水産の魚を数種類生体展示。

## 4. 特別展

### (1) 濃飛の縄文時代

4月23日(火)～6月9日(日)

縄文時代の人々は、狩猟や漁撈、なかでも植物性食料の採集に生活の基盤を得ており、その暮らしは、変化に富んだ日本列島の自然に大きく影響されていた。

岐阜県は日本列島を二分する植物の水平分布、すなわち落葉広葉樹林帯および常緑針葉樹林帯(東)と照葉樹林帯(西)との接点をなす地域であり、その自然環境の多様性が、県内縄文文化の特色を決定づけていたといえる。

今回の特別展では、以上の点に注目し、県内各地の縄文考古資料を展示し、この時代の人々の生活の具体像に迫ると同時に、美濃・飛騨をはじめとするそれぞれの地域の特色の一端を紹介し、現代の地域性が、古く縄文の時代にまで遡行しうることを明らかにするものである。

#### 展示構成の概要

展示は、「縄文時代以前の暮らし」を導入部分とし、第1「土器を使う暮らし」第2「ムラの形成」第3「呪術のなかで」第4「くらしの道具」第5「“まつり”の道具」、そして特別コーナーとして「岐阜県考古学の先達—二木長嘯の収集品—」を設け、考古資料を中心に、県内縄文文化の全体像を把握できるようにした。

「縄文時代以前の暮らし」では、赤土坂遺跡から出土したナイフ形石器をはじめとして、県下で発見された代表的な旧石器を展示した。

「土器を使う暮らし」では、縄文時代草創期・早期・前期にあたる椀の湖遺跡や下幕岩岩陰・根方岩陰遺跡などから出土した土器、石器、人骨などを展示し、縄文時代の始まりと、その時期の人々の生活の一端を紹介した。

「ムラの形成」では、①「海辺の暮らし」、②「平地の暮らし」、③「山地の暮らし」のパートに分け、①では県下では貴重な庭田貝塚出土資料、②では炉畑遺跡などから出土した資料、③では、峰一合遺跡をはじめとして、飛騨地方から出土した資料を展示した。このコーナーに

展示した資料は、縄文前期から中期のものであり、生活用具も豊かになり、ムラの規模も拡大したことを示している。また現在よりも温暖であったこの時期の気候が、豊富な堅果類や動物に恵まれた「山地の暮らし」を充実させたことを物語っている。

「呪術のなかで」では、中村遺跡や北裏遺跡から出土した縄文後期から晩期の資料を展示した。土偶や独鈷石など「まつりの道具」の種類や量が多くなるこの時期は、前・中期の恵まれた自然環境から厳しい自然環境への移行を反映している。

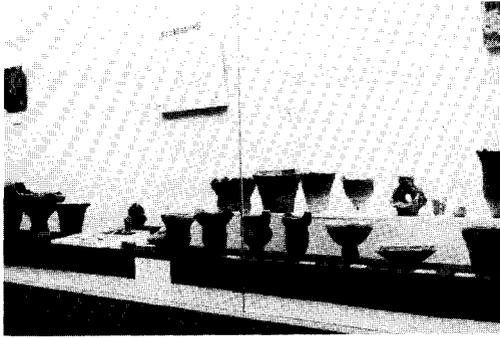
「くらしの道具」では、「狩猟具」「工具」「調理具」「木製品」のパートに分け、県内各地から出土した尖頭器、石鏃、石錘、石斧、石匙、石皿などを年代の流れの中に位置づけて展示した。

「“まつり”の道具」では、県内各地から出土した土偶・吊手土器・石棒・石刀・石剣・石冠・御物石器など、日常生活用具ではなく、精神的な意味を有して作られたと思われる資料を展示した。これらを通して、縄文人の心の一端にふれることができる。

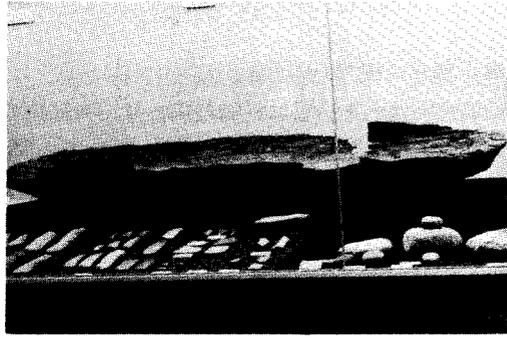
「岐阜県考古学の先達—二木長嘯の収集品—」では、江戸時代の飛騨高山の酒造家二木長右衛門(号は長嘯)が収集し、現在も二木家に保存されている有舌尖頭器・独鈷石・石冠・多頭石斧など、貴重な石器類や長嘯による模写図(『神代石図』など)を特別に展示した。

#### 関連事業

- 講演会 5月12日(日)  
演題 「縄文時代の食生活」  
講師 国立民族学博物館助教授 小山修三氏  
縄文人は何を食べていたか、考古学的知見にとどまらず、『斐太後風土記』などが援用され、多角的な視点から縄文人の食生活の実際が浮き彫りにされた。
- 人文教室 5月26日(日)  
演題 「アフリカ旧石器時代の人類と文化」  
講師 信州大学教授 大参義一氏



「山地の暮らし」の展示コーナー

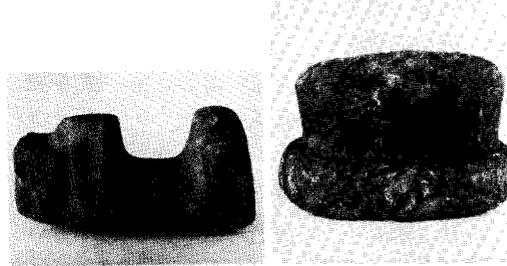


「暮らしの道具」の展示コーナー



「山地の暮らし」

「まつりの道具」



「まつりの道具」

二木長嘯収集品

## (2) 「鉱物の世界」

7月16日(火)～9月8日(日)

私たちの祖先は、古くから岩石や鉱物をじょうずに利用し、生活を豊かにするとともに、文化を発展させてきた。今、身のまわりに目を向けてみると、鉛筆から人工衛星にいたるまで、ことごとく鉱物の恩恵を受けている。

岐阜県は、全国的にみても重要な鉱物産地である。日本で最大の亜鉛・鉛を産出している神岡鉱山やウラン鉱産出の東濃鉱山、ドロマイトやケイカイ石の産出で有名な春日鉱山がある。また、苗木地方は、トパズの美しい結晶やめずらしい鉱物が数多く産出するというので、日本第一級の鉱物産地といわれている。

この特別展では、国内外の貴重な数々の結晶標本と、未来をつくる鉱物として、ファインセラミックを紹介し、鉱物について改めて認識し、かつ、岐阜県が果たしている役割を考え、さらには、未来に対応する新しい鉱物について、理解できるように配慮した。

### 展示のねらい

美しい結晶標本を通して、鉱物の性質や種類について紹介する。また、未来をつくる鉱物として、ファインセラミックのすぐれた特徴について紹介する。

- (1) 鉱物の性質について
- (2) いろいろな鉱物について
- (3) ふるさとの鉱物について
- (4) 未来をつくる鉱物として、ファインセラミックについて



特別展「鉱物の世界」開幕式

## 展示構成の概要

- ◎鉱物とはー・岩石は鉱物の集まり、・鉱物の性質（結晶系、同質異像、鉱物の色、へき開、条痕色、硬度）。
- ◎いろいろな鉱物ー・化学組成による分類（元素鉱物・硫化鉱物・ケイサン塩鉱物など）。
- ◎ふるさとの鉱物ー・岐阜県の主な鉱産地と、主な鉱物（神岡鉱山、苗木地方など）。
- ◎未来をつくる鉱物ー・石器から金属の使用へ、  
・鉱物の利用、  
・ファインセラミック（人工単結晶の鉱物、人工多結晶の鉱物）。

## 展示資料の概数

岐阜県産鉱物	60点
国内産鉱物（県内産を除く）	120点
国外産鉱物	90点
ファインセラミック	10セット
写真・図表	約40点

## 関連教育普及事業

- 講演会 期日 8月11日（日）  
講師 日本地学研究会館館長 益富寿之助氏  
演題 “石のはなし”  
参加者 103名

講演内容は、石と人とののであい、石のなりたち、石のしらべ方、石のいろいろであった。

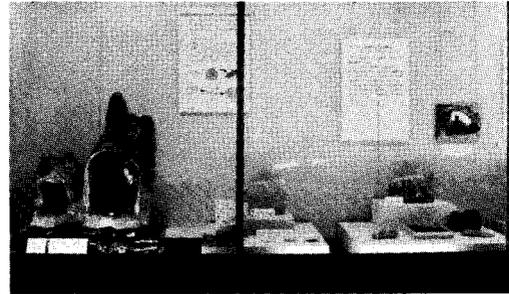
先生をはじめ、苗木地方の鉱物研究で有名な長島乙吉氏、日本の鉱物の化学分析での第一人者である木村健二郎氏と石とののであいからはじまり、根尾の菊花石についての先生の最近の研究成果について、地質図やスライドを使用しての3時間におよぶ講演であった。

先生は、84才という年齢で、しかも3年前にガンの手術をしておられるのに、今でも原色岩石図鑑の執筆や鉱物・岩石の採集に出かけておられるとのこと、講演の内容やその真摯な姿ともあわせ、強く感銘をうけた。

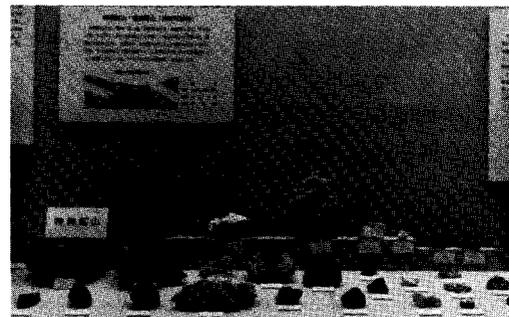
- リーフレットおよび絵ハガキ配布  
入館者の方々には、手引きとして、絵ハガキとリーフレットを配布し、鉱物についての理解に役立てていただくよう留意した。

## 展示資料出品協力者（アイウエオ順・敬称略）

伊藤洋輔	灰重石など
大竹碍子 K K	人工雲母
県教育センター	自然銅など
京セラ K K	ファインセラミック製品など
櫻井欽一	自然金など
地質調査所	自然銀など
東京窯業 K K	ニューセラミック製品など
苗木公民館	金雲母など
中尾潮忍	トパズなど
日本特殊陶業	ニューセラミック製品など
益富寿之助	ダイヤモンドなど
三井金属神岡鉱業所	磁硫鉄鉱など



“鉱物とは、”展示コーナー



“ふるさとの鉱物、”展示コーナー



“未来をつくる鉱物、”展示コーナー

## 美濃の刀剣

10月8日(火)～11月24日(日)

美濃伝は、鎌倉末期に正宗十哲の一人、三郎兼氏が、大和から志津(南濃町志津)の地に移り住み、志津派をおこしたことに始まり、直江(養老町直江)・赤坂・関と鍛冶地を移しながらも、美濃の地の利と南北朝の内乱や戦国乱世という旺盛な刀剣需要の波に乗って隆盛を極めた。

こうした美濃伝の完成、発展の経緯の中で作りだされた刀剣は数多くある。しかし、これまで美濃伝といわれる刀剣を少数ずつ集めて紹介することはあっても、系統的に多数を集め一堂で紹介することはなかった。

そこで、本展では、美濃伝の系譜を、志津鍛冶、直江志津鍛冶、関鍛冶に焦点をあてながらたどり、また、美濃から他国へ出て活躍した刀工たちも含め、彼らが作りだした名刀を紹介することによって、郷土の伝統工芸によりいっそうの関心をもっていただくことを願った。

尚、今回、美濃伝の系譜を知る上でポイントとなる名刀の数々をお借りすることができたのは、日本美術刀剣保存協会のご協力によるものであり、ここに感謝申し上げる。

### 〈 展示内容 〉

#### 第Ⅰ部 美濃鍛冶の歴史コーナー

美濃鍛冶の歴史や美濃の刀剣の特色を、資料・パネル・写真などで紹介した。

1. 創業期の美濃鍛冶
2. 美濃鍛冶の中心・関へ移る。
3. 美濃鍛冶の全盛期
4. 新刀期の美濃鍛冶
5. 美濃鍛冶の鍛法

#### 第Ⅱ部 名刀のコーナー

##### 1. 創業期の作品

鎌倉末期から南北朝時代に美濃の刀剣の基礎を築いた鍛冶の作品を中心に紹介。

##### 2. 隆盛期の作品

室町中期から末期の美濃伝全盛期の代表工の作品を紹介。

##### 3. 他国へ出て活躍した刀工の作品

京へ出て三品派を開いた兼道(大道)とその子や尾張三作といわれた政常、氏房、信高など、他国で名をあげた刀工の作品を紹介。

#### 第Ⅲ部 刀装具・美濃彫のコーナー

古くから美濃の地で作られた「美濃彫」と呼ばれる刀装小道具——鐺・小柄・目貫・縁頭・筭——などを紹介。

### 〈 関連教育普及事業 〉

#### 1. 講演会

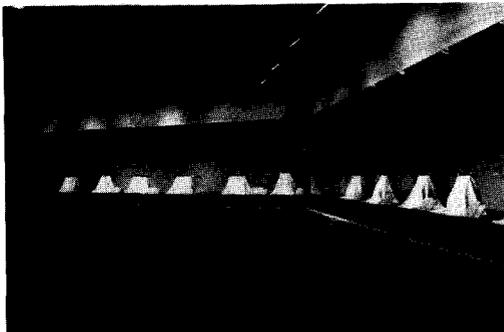
- 期日 11月10日(日)
- 演題 「美濃の刀剣」
- 講師 日本美術刀剣保存協会  
常務理事 加島 進氏

#### 2. 人文移動教室

- 期日 11月3日(日)
- 刀匠、研師さんの仕事場や美濃鍛冶ゆかりの寺社を訪ねた。

#### 3. 図録「美濃の刀剣」の発行

B5版 66ページ 900部



# 展 示 品 目 録

(注) ★重文 ◎重美 ○特別重要刀剣 ○重要刀剣  
△貴重小道具 ◇県指定 ◆市指定

## 第Ⅰ部 美濃鍛冶の歴史資料コーナー

番号	指定	資 料 名	番号	指定	資 料 名
1		磨刀石銘(軸装)	16		信長朱印状(軸装)
2		信長朱印状(折紙・複写)	17		関鍛冶惣連名(折本)
3		土岐頼清画像(軸装)	18		兼常系図(卷子)
4	◇	太刀 銘 守口	19		口宣案(折紙)
5	◆	槍 銘 千手院作	20		関鍛冶仲間取締一札(折本)
6		関鍛冶累代之系図(複写)	21		刀匠看板(善定藤原兼洞)
7		関鍛冶七流之事(折本)	22		”(奈良藤原兼景)
8		神事能、席次の図(卷子)	23		”(善定藤原兼次)
9	★	能装束、狩衣(花鳥文銀襦)	24		”(関藤原兼吉)
10	◇	能面(白色尉・若い女)	25		槍 銘 相模守藤原政常
11		関市下有知・重竹遺跡出土品 36点	26		刀剣製作工程資料(一式)
12		火 繩 銃	27		刀剣鍛錬の道具(一式)
13	◇	茶糸威最上胴丸	28		刀剣鍛錬人形(一式)
14		関ヶ原合戦絵図(屏風)	29		研ぎの道具(一式)
15		刀 銘 兼基			

## 第Ⅱ部 名刀のコーナー

番号	指定	種類	銘	番号	指定	種類	銘
1	◎	太刀	銘 兼氏(金象嵌)松平利隆用之	18	◎	刀	銘 氏貞(号・一国氏貞)
2	★	太刀	銘 兼氏	19	○	脇指	銘 濃州関住大道作 天正十八年五月日
3	★	短刀	朱銘 志津 光徳(花押) (名物・稲葉志津)	20	◇	刀	銘 濃州関住兼常 文禄五年十二月吉日
4	◎	短刀	銘 兼氏(金象嵌)花形見	21		大身槍	銘 兼重作 (朱書)加藤清正息女瑞林院様御入 輿之節御持之
5	○	刀	無銘 志津	22		薙刀	銘 從兼吉五代兼先三代作 天文八年十月吉日
6	◎	短刀	銘 兼友	23	◇	刀	銘 濃州関住兼房作 河村京三郎 (切付銘)奉寄進熱田太神宮兼房作 永禄十一年二月吉日
7		刀	無銘 直江志津	24	○	大身槍	銘 伯耆守藤原信高
8	○	短刀	銘 金重(二代) (附)黒漆菊桐唐草紋金具小サ刀拵	25	◎	短刀	銘 相模守藤原政常
9	◎	脇指	銘 越州住国行 貞治四年十月日	26	○	刀	銘 飛騨守藤原朝臣氏房作 慶長拾年八月吉日
10		短刀	銘 濃州住兼吉 応永十年八月日	27	○	刀	銘 濃州関住輝広造 天正十七年九月日
11	◎	刀	銘 兼元(号・青木兼元)	28	○	脇指	銘 越前一乗住兼則
12		刀	銘 濃州赤坂住兼元	29	◎	刀	銘 伊賀守金道
13		刀	銘 兼元(号・柳生兼元) (附)黒漆研出較肥後打刀拵	30	◎	刀	銘 丹波守吉道
14	○	刀	銘 兼定	31	◎	刀	銘 越中守正俊
15	○	短刀	銘 兼定	32	○	刀	銘 賀州住兼若造
16		刀	銘 濃州関住兼定作 (附)黒漆腰刻研出較打刀拵(号・歌仙拵)	33		脇指	銘 濃州関住善良家越前守吉門 寛永二拾年未ノ二月吉日
17	○	刀	銘 和泉守藤原兼定 石破渋谷木工頭明秀(金象嵌)二胴切落 伊勢山田是作 永正十二年二				

## 第Ⅲ部 刀装具のコーナー

番号	指定	資 料 名	番号	指定	資 料 名
1		金梨地紋入衛府太刀拵	10		篤宿梅図鐙
2	△	蝶較青漆塗大小拵	11	◇	秋草若駒図縁頭
3		黒漆打刀拵	12	◇	牡丹獅子図縁頭
4	△	黒漆打刀拵	13	◇	秋草虫図目貫
5	◇	籬秋草図鐙	14	◇	秋草図目貫
6		秋草鹿図鐙	15		秋草鹿図小柄
7		立田川図鐙	16		美濃龍図小柄
8		秋草図鐙	17		菊桔梗図笄
9		秋草図鐙	18		丁字図大笄

## 5. 資料紹介展

### (1) ふるさとの魚

12月15日(日)～2月11日(火)

魚釣り、魚とり、誰もが一度は経験していると思う。それだけに魚は、私たちに身近で、親しみのある生物である。岐阜県は海にこそ面していないが、木曾三川をはじめ、太平洋・日本海へ流れる大河川を有し、全国でも有数の淡水魚の豊庫となっている。セキツイ動物の中でも最古の歴史を持つ魚類は、自然史を語る上で重要な位置にあるにもかかわらず、その分布・生態について未知な部分が多い。漁師等にとって有用魚中心となるのはやむを得ないことも知れない。

カマキリ・ニホンバラタナゴの分布、ネコギギの生態など、これからの研究を待たねばならないが、自然環境の変化は、ハリヨ・イタセンバラなどが減少し、メダカの姿さえ見ることが少なくなってしまった。それに加え、アユの放流をはじめ、他地域から移入された魚が増殖し、本来の分布をくずしている。そして今、漁を業とする人が少なくなり、方言で呼ばれていた魚の本当の姿を知る人が少なくなってしまった。

本紹介展では、館蔵の魚類標本を中心に、変化しつつある魚の社会や方言・漁法などを紹介し、ふるさとの魚の全体像をつかみ、魚への興味・関心を高めることを意図した。

展示内容	
I 魚の種類と分布	Iのコーナーで上流から河口まで、県内各
II 帰化魚	河川で見られる魚を展
III 回遊魚	示した。特に淡水魚に
IV 天然記念物の魚	ついては、カワバタモ
V 漁法	ロコ・ワカサギを除き、

全種展示することができた。

IIのコーナーでは、ブルーギル・オオグチバスなど外国原産の種について展示、その経路も解説した。さらに、アユと共に移入されたハスなどについても解説した。

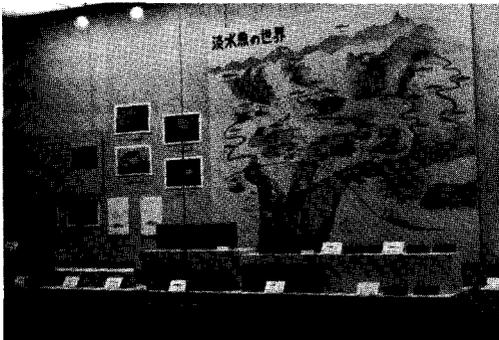
IIIのコーナーでは、アマゴマスとサクラマスについて、アマゴとヤマメの海降型であること、今まで、アマゴマスがビワマスと呼ばれていたりと、分類も明確でなかったのを最新の情報をもとに明確化することに心掛けた。

IVのコーナーでは、天然記念物を取りあげ、ハリヨ・ネコギギ・イタセンバラを展示し、天然記念物への関心を深めるよう配慮した。

魚類標本 120点、パネル・写真 50点、漁具 15点を展示した。魚類標本については、標本ケースなどで川島町民俗資料館の協力を得ることができ大変助けられた。標本がホルマリン液漬のため、退色が著しく魚本来の婚姻色等が見られなかったのは残念である。しかし今回は、あくまで資料紹介であり、やむを得ないことも知れない。

今回の展示を通じ、一般の人たちの魚類への関心が予想以上に高いことを知った。そのためか各報道機関も好意的に取りあげてくれ、写真での特集を組んでくれた社もあった。通常入館者の少ない冬期でありながら、日曜日には千人を越える人たちに見ていただくことができたのもマスコミの影響と考えられる。

今後の課題として、長年伝わってきた漁具・漁法が失なわれつつある現在、漁具などの資料収集は急務であると考えられる。



## (2) 古式鉄砲 —その歴史と美—

61年3月2日(日)～4月6日(日)



1543年(天文12)戦国争乱の渦の中、ポルトガルよりもたらされた古式鉄砲(火縄銃)は、諸大名の努力によって国産化され、日本統一を早める上で画期的な役割を果たした。

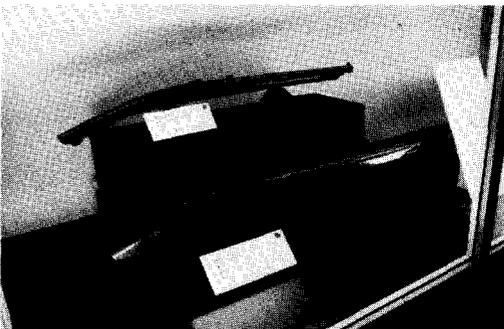
その後、古式鉄砲は江戸時代の鎖国下において独自の発達をとげるが、幕末には欧米に格段の遅れをとり、明治維新以後全く過去の遺物と化してしまった。

しかし、現在この古式鉄砲は、武器という本来の用途を離れ過去の優れた手工芸生産物、あるいは装飾をこらした美術工芸品としての価値が高く評価されている。

この資料紹介展では、古式鉄砲の歴史的意義と美術工芸品としての価値を紹介し、文化財としての認識を深めていただけることを願った。

展示は、1「古式鉄砲の歴史」、2「美術工芸品としての古式鉄砲」、3「近代以降の鉄砲」4「古式鉄砲の仕組」の4つのコーナーに分け、古式鉄砲にかかわる歴史と美を総合的に把握できるようにした。

第1のコーナーでは、鉄砲が日本の歴史の中で果たした役割として、「鉄砲の伝来と生産」・

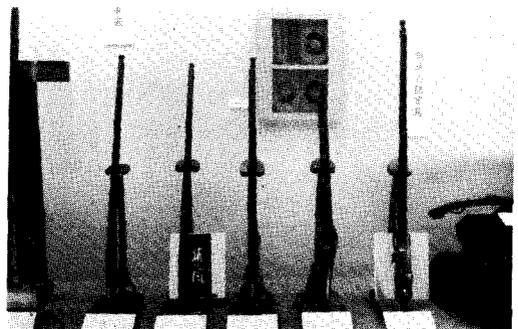


「天下統一と鉄砲」・「江戸時代の鉄砲」に分けて、種ヶ島筒・慶長古銃・大筒・中筒・長筒(細筒)・馬上筒(短筒)・変装筒・火矢筒の実物と鉄砲鍛冶屋敷、稲富流砲術伝などを写真や図表などによって鉄砲の歴史の変遷とその果たした役割を紹介した。第2のコーナーでは大名・武士の愛玩品として装飾をこらした鉄砲として堺及び国友の鍛冶職による銃身の象嵌および銃床の飾り金具を対比させて紹介した。堺の鉄砲は都会的でより洗練された美しい姿をもち、国友村の鉄砲は質実、重厚なものであったという違いが理解できるように紹介した。第3のコーナーでは開国に伴う洋式銃の輸入による和製鉄砲の近代化として「幕末の輸入銃」と「国産の鉄砲」に分けて紹介した。第4コーナーでは鉄砲各部の名称とカラクリ・スプリング・パイプ・ネジの製作を図解と実物とによって紹介した。



古式鉄砲砲演 3月9日

関連事業として、堺鉄砲研究会・大垣城鉄砲隊・彦根城鉄砲隊による古式砲術の流儀としての立ち打ち(一斉、連射)・座り打ち(一斉、連射)・種別打ちを80発砲演として公開した。空砲とはいえ実射に迫る轟音に多数の参観者の好評を得た。



## 6. 資料調査収集活動

### (1) 人文部門

	館		蔵		借 用	寄 託	計
	実 物	複 製	そ の 他	( 寄 贈 )			
考 古	1,985	165	49	(1,790)	599	175	2,973
歴 史	848	29	115	( 835)	325	15	1,332
民 俗	1,254	0	9	(1,254)	0	1	1,264
美術・工芸	214	16	34	( 59)	259	611	1,134
そ の 他	0	0	0	( 0)	0	1	1
計	4,301	210	207	(3,938)	1,183	803	6,704

複製には模型・ジオラマを含む（昭和61年3月31日現在）

#### 1. 資料寄贈者芳名一覧（敬称略・順不同）

資 料 名	点数	芳 名
法華経写経・管	12	三 島 良 純
秤（台付）	1	岡 野 洋 三
縄文土器片 他	179	廣 田 照 夫
大工道具一式	10	亀 山 幸 子
衝立・葉研 他	4	酒井田 銃四郎
蚕まゆ・毛羽	51	白 木 松 子
唐箕など農具	23	田 中 勝 盛
山茶碗他民具	4	亀 山 武 二
酒袋など酒造用具	4	白 木 恒 助
当座帳・和紙他	23	松 久 永 助
徳山村民具	524	神 足 稔 一
練炭火鉢他農具	6	猿 渡 利 一
御膳籠など民具	12	早 川 義 行
フ イ ゴ	1	間 宮 瑞 夫
徳利・桶 他	9	片 桐 博
f字型鏡板 他	26	徳 山 一 恵
水桶・寄せ書き他	24	井 藤 美 一
芋トオン 他	7	西 部 廉
秤	2	県工業技術センター
投票箱 他	2	県議会事務局
計算器	2	県工芸試験場
ひな人形	1対	亀 山 祖 道

#### 2. 新館蔵資料紹介

##### ・法華経写経・管

この法華経写経及び管は、虎溪山永保寺（多治見市）の前住職・三島良純老師（79才）より寄贈いただいたものである。三島老師は、太平洋戦争後、戦没者の供養のため写経を始められ、二十余年をかけて昭和42年に全28巻を完成されたもので、老師の「鎮魂の書」ともいうべき貴重な資料である。

この28巻のうち16巻は、昭和55年に寄贈いただいている。今回はその残分のうち欠巻の第19巻を除き11巻の寄贈を受けた。

この写経に使用されている料紙は、故田中新美氏（平家納経、大和絵など古画、古筆の研究者）によるもの、また、乾漆黒地経巻管は、山永光甫氏（日本工芸会）によるものであり、工芸的な価値も高い資料である。



三島老師に代わって、現永保寺住職中村文峰老師、上山英子氏、土本一晴氏立ち合いのもとに贈呈式が行われた。

### •徳山村民具

元徳山村戸入の神足稔一氏から、そま道具、大工道具を中心として524点におよぶ資料の寄贈を受けた。そのうち3点を紹介したい。

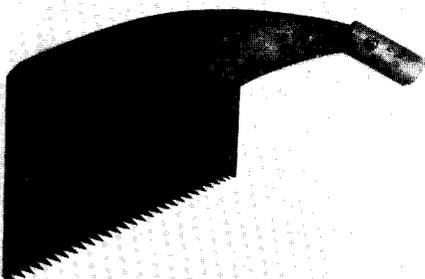
#### (ア) 豆腐づくり道具

徳山村では正月用のご馳走として、豆腐などがつくられた。徳山豆腐はにがりを多く使用するせいか、通常のものより固めである。



#### (イ) オガ

かつて徳山では、3尺×9尺の栃板が挽かれ、徳山銘木として売られた。栃板生産用の縦びき大鋸をオガという。



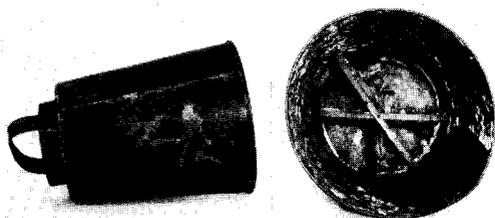
#### (ウ) カンスとカナオ

徳山村ではカマドがほとんどなく、いろいろが両方の機能を併せもっていた。そのため、湯わかし用にカンスが、また自在鉤の代りにカナオ（ゴトク的一种）が使われた。



### •がんどう

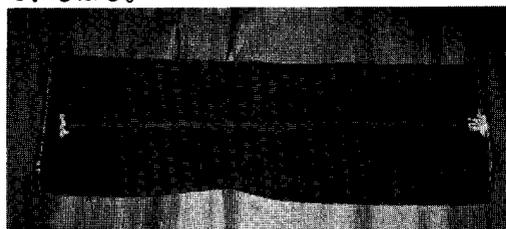
関市鋳物師屋の早川義行氏より寄贈された。がんどうは、主に江戸時代に用いられた携帯用燈火の一種で、納屋や土蔵での探し物や、夜廻りなどに使われた。容器の中は、金輪を組合わせ、ロウソクがいつも垂直に保てるように工夫されている。



### •酒袋

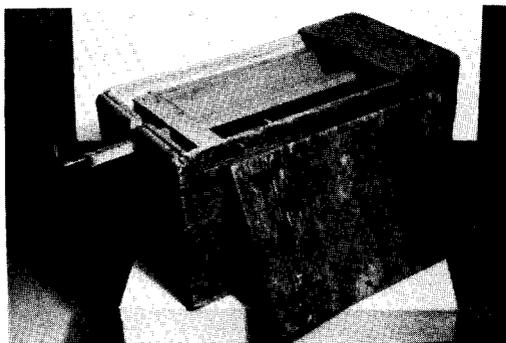
岐阜市門屋の白木恒助氏より寄贈された。この酒袋は、木綿製・柿渋染の2弁袋で、昭和20年代後半まで使用された。

モロミを酒袋の中に入れて、口を閉め、それを木製の槽の中に積み上げ、上から圧力をかけて、しぼる。



### •箱トオシ

美濃市生櫛の西部 廉氏より寄贈された。石臼で引いた米の粉を、この中に入れてふるい、うどんやだんごを作る原料の選別をした。



## (2) 自然部門

	館 蔵				借 用	寄 託	計
	実 物	複 製	移管・自作 その他	寄 贈 (内 数)			
動 物	20,023	15	164	(8,782)	15	0	20,217
植 物	4,066	35	183	(2,922)	0	0	4,284
岩石・鉱物	1,882	5	73	( 498)	20	3	1,983
化 石	1,680	31	20	(1,028)	47	19	1,797
そ の 他	57	22	168	( 15)	0	0	247
計	27,708	108	608	(13,245)	82	22	28,528

複製には模型・ジオラマを含む(昭和61年3月31日現在)

## 1. 資料寄贈者芳名一覧(敬称略・順不同)

昭和61年3月31日現在

資料名	点数	芳 名	資料名	点数	芳 名
メジロほか	5	亀山 力造	ゴイサギ	1	小澤 和夫
ニホンカモシカ	1	付知町林政課	モグラ	1	後藤 恭平
カワセミ・シロマダラ	2	平林 良三	トビ	1	古川 守
ホンダイタチ	1	今井 悦夫	メボソムシクイ他	2	岸 二郎
ヌートリア	5	金森 昭至	ヒメタニシ	5	三尾 富子
ウマの胎児・ウシの頭骨	2	長沼 悟	ウグイス	1	安江 薫三
クロスズメバチの巣	1	木股 享	オサムシ10種	45	広瀬 正則
ヤマドリ・カジカ他	13	後藤 正	オオツノトンボ	1	古川 清二
イノシシ胎児	3	村瀬 昭雄	ニホンザル	1	黒下 義行
ニホンジカの胃	1	河尻 準之助	ウミスズメ他	2	村瀬 文好
ニホンジカの胃の内容	1	中嶋 繁喜	淡水貝類	515	河村 恒雄
アブラコウモリ	1	成瀬 亮司	淡水貝類	435	水野 三木朗
ヤマドリ	1	野田 直通	ヨタカ・モズの巣	2	平野 友重
ニホンジカの頭骨	1	土松 新逸	蝶の標本	33	宮野 昭彦
ヤマシギ	1	藪下 基	カワムシ他8種	32	増井 保夫
モズ・セグロセキレイ	2	国枝 時雄	ゲンゴロウブナ他	5	渡辺 保生
メボソムシクイ	1	桑原 龍昭	ギギ・ニゴイ	6	林 復明
カワセミ・アオゲラ他	3	辻 栄介	ヤリタナゴなど	38	琵琶湖文化館
ヤマカガシ	1	中澤 武士	ヤマメなど	10	県水産試験場
魚類・蛾類標本	1,200	金古 弘之	コイ・フナ・ナマズ	7	県教育センター
ミカドギセル他	3	馬淵 義智	ヤマドリ	1	加藤 幸雄
チャコウラナメクジ	1	保母 維久子	ススキなど	12	横山 義正
ツバメ・シロハラ他	4	日比野 安和	ジョウビタキ	1	山田 展明
ドバト・ホオジロ他	4	山田 良二	スズメ	1	渡辺 千恵
タゲリ・ハクビシン他	3	嶽本 清一郎	ホンチャバネセセリ	2	吉田 茂
トラツグミ他	4	伊佐治 久道	ツツドリ	1	広井 貞一
ギフチョウ	10	加藤 憲夫	シジュウカラ	1	五藤 弥生

資料名	点数	芳名
ホンドリタチ	1	本田 享司
ツミ	1	安藤 恵美子
キビタキ	1	加茂高生物部
エゾビタキ	1	荒井 浩
リス	1	竹内 和敏
イタチ	1	佐藤 坤
ヒメボタル他	19	宮崎 惇
ヒヨドリ	1	桜井 興平
岐阜県産貝類標本	約 2,500	東山 熙
ヒメボタル生態写真	28	竹内 重信
鳥の巣・外国産昆虫類	54	飯田 罔昌
ミヤマモンキチョウ他	4	坂巻 豊
ノウサギ(仔)	1	栃尾小学校
スッポン・カムルチー	2	田島 正三
スッポン骨格	2	岩田 光弘
ゴイスギ	1	石田 明靖

資料名	点数	芳名
ホンデン	1	堀田 勝
ノウサギ(夏毛)	1	上原 裕雄
アオジ	1	小野木 敦子
カルガモ	1	三尾 和三
イグアナ(南米産)	1	山下 昌毅
オオタカ(幼鳥)	1	山口 武
植物標本	約 1,000	二村 延夫
飛騨産植物標本	1,600	長瀬 秀雄
サラバウ鉱	1	笠原 芳雄
木材石	1	益富 寿之助
サメの歯ほか	25	伊藤 洋輔
鶏冠石ほか	37	伊藤 洋輔
砂漠のバラ	1	鷺見 峯男
マガキほか	20	田島 正二
飾石	1	児玉 輝彦

## 2. 化石資料の収集

60年度は吉城県上宝村福地・一重ヶ根地域に分布する古生代デボン紀～石炭紀の動物化石を中心に収集した。

この地域は、日本最古の化石など多くの動物化石を産出し、日本における前期古生代の化石産地として極めて大切である。しかし、山地の荒廃や人工破壊などのため、採集可能な資料が年々激減している状況である。

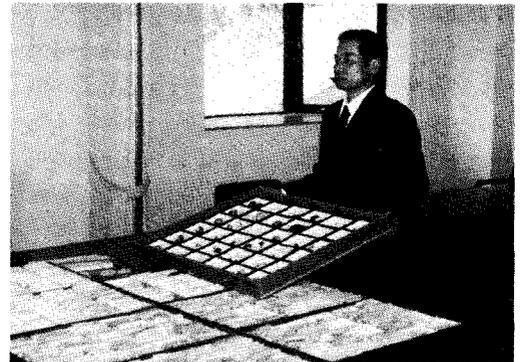
収集指導者として東京大学教養学部の浜田隆士教授をむかえ、また本邦一流の化石採集家の協力を得て3日間、116点の床板サンゴ・腕足類・三葉虫などの動物化石を収集した。

## 3. 常設展示の充実

60年度は、自然展示室2の一部の整備充実計画が予算化され、11月に工事が実施され、12月20日に整備が完了し、61年1月4日に一般公開された。(詳細は、Ⅱ昭和60年度のあゆみ 3常設展を参照。)

## 4. 常設展示充実準備に関する調査収集

地学分野 (1) 本巣郡根尾村松田で、美濃中・古生層の石灰岩及び緑色岩の調



査収集。

(2) 大野郡荘川村大黒谷で、中生代白亜紀手取層群の植物化石の調査収集。

(3) 郡上郡八幡町及び美濃市州原地区及び長良川流域の調査収集。

植物分野 (1) 笠ヶ岳連峰の植物資料収集、生態写真撮影。

動物分野 (1) 笠ヶ岳連峰の動物調査、生態写真撮影、特に小哺乳類の採集、蝶・甲虫類の資料収集。

(2) 県内産魚類の資料収集。

## 7. 教育普及活動

### (1) 概 略

博物館における教育活動は、物（資料・調査研究成果）を人に結びつけることをめざして行われなければならない。今年度も、より多くの県民との結びつきを願って多彩な催し物を企画実施した。各教室等の参加人数は、別表のように講演会を含めた27教室の総計1,190名で、前年度（984名）を上回り、主体的学習の援助、生涯学習の場づくりに寄与できたと思う。

親子手づくり教室、自然観察会、移動教室等体験学習型の催し物は参加者が多かった。参加意欲のわくテーマの設定が鍵になるが、館蔵資

料や展示と関連をもった教室の企画をしていくことも必要であろう。

一方、広報活動としては、博物館の運営や活動を広く県民に知らせるために、前年度の方法を踏襲し徹底した。特別展資料、催しもの案内チラシ等の配布、県の広報媒体・新聞やラジオ等の報道諸機関への情報提供、諸会合等でのPRを行ったが、周知徹底することの難しさを感じた。情報・資料の効果的な提供先や提供方法について再考する必要がある。

郷土学習室のビデオスタディコーナーは、動く展示としてかなり利用されているが、故障が多く、維持管理面での課題も残されている。

＜昭和60年度 各種講演会及び教室等の参加人数＞

	事業名	月日	テーマ・内容	講師	対象	参加人員
人文関係	特別展講演会	5. 12	縄文時代の食生活	国立民族学博物館 助教授 小山修三氏	一般	150
		11. 10	美濃の刀剣	日本美術刀剣保存協会 常務理事 加島進氏	〃	187
	人文教室	5. 26	アフリカ旧石器時代の文化	信州大学教授・大参義一氏	中学生以上 一般	50
		10. 27	江戸時代の農業	郷土史研究者・丸山幸太郎氏	〃	11
	親子考古教室	6. 2	縄文時代のまつり	当館学芸員・徳松正広	親と中学生	27
		8. 18	火おこし器をつくろう	〃	〃	74
	歴史教室 (岐阜県の人物)	6. 9	永田佐吉	当館学芸主事・片野雅夫	中学生以上 一般	3
		9. 29	浅見与一右衛門	当館人文係長・大前匡昭	〃	5
		12. 8	西脇秀挺	当館学芸主事・小川和英	〃	3
	人文移動教室	11. 3	刀匠・研師を訪ねて	当館学芸主事・平田公二	一般	24
自然関係	特別展講演会	8. 11	石の話 ― 鉱物の世界 ―	日本地学研究会館長 益富寿之助氏	〃	93
	自然教室	6. 23	濃尾平野のおいたちをさぐる	名城大学教授・桑原徹氏	中学生以上 一般	61
		10. 13	サルの来た道	京都大学教授・岩本光雄氏	〃	50
		11. 17	花の話	岐阜大学助教授・高橋弘氏	〃	63
	自然観察教室	5. 19	百年公園の昆虫しらべ	当館学芸主事・安藤志郎、鈴木功	親と中学生	27
		9. 22	〃	〃	〃	23
		4. 28	百年公園の植物しらべ	当館学芸員・小野木三郎	〃	35
		11. 24	〃	〃	〃	19
		7. 14	植物画を楽しもう	〃	〃	15
	自然観察会	7. 27. 28	根尾村の自然観察（昆虫・植物）	当館学芸主事・小野木、安藤、鈴木	〃	47
自然移動教室	10. 6	長良川沿いの自然を訪ねて（地質）	当館学芸主事・国光正宏	中学生以上 一般	18	
教育普及関係	親子手づくり教室	7. 7	切り絵	当館教育主事・今井雅巳	親と中学生	14
		8. 25	竹細工	竹細工師・石原文雄氏	〃	65
		12. 1	版画あそび	当館学芸主事・平田公二	〃	35
		12. 15	しめなわづくり	わら細工師・大野仁久氏	〃	33
		12. 22	凧づくり	竹細工師・石原文雄氏	〃	48
	夏休み研究相談室	7. 10～25 8. 25～30	夏休みの研究の進め方、整理の仕方	当館学芸員・各担当者	小中学生	10

## (2) 移動展

「ふるさとの植物とほ乳動物」というテーマで、海津町と岩村町で実施した。

植物標本約 200点、動物剥製標本26点  
頭骨 8点、昆虫標本箱13箱、写真パネル30点  
解説パネル40点、その他ジオラマ材料多数

○海津町中央公民館 4月24日～5月9日

●町政30周年の協賛事業として実施

●入場者数 504人

○岩村町公民館 8月8日～8月22日

●岩村城創築 800年祭の協賛事業として実施

●入場者数 1,844人

主催：岐阜県博物館、海津町教育委員会

岩村町教育委員会

テーマ「ふるさとの植物とほ乳動物」に、昆虫の展示を加えるなど、内容の拡大充実を図った。そのため、幼児や小学生により親しみやすい移動展となった。

今後は、人文系の展示を加えた総合博物館の移動展という形を整えるのが課題といえよう。

## (3) 資料貸出し

他館の展示、研究会、学校での教材等に次のような資料を貸出した。

○川島町ふるさと史料館

●古代の生物をさぐる化石展(8.3～9.13)

ハチノ巣サンゴ他 12点

●ふるさとの魚(61.2.20～6.10)

液浸標本・パネル等 50点

○神戸町中央公民館

●ふるさとの昆虫(6.4～7.2) 350点

● " 植物(7.2～8.27) 200点

● " ほ乳動物(11.26～1.16)32点

● " 鳥(1.16～3.11) 53点

○中津川市教育委員会(9.11～10.8)

●鉱物標本、パネル、写真等 30点

○岐阜大学武田教授・日本昆虫学会(10.17～10.27)

●昆虫標本箱 8箱

○加茂農林高校・文化祭(10.7～11.20)

●昆虫標本箱 1箱 写真パネル等 12点

○関市瀬尻小学校(11.28～12.4)

●フズリナ化石他 10点

## (4) 昭和60年度 刊行物一覧

名称	発行年月日	版・頁	部数	備考
岐阜県博物館だより 第26号	60. 4. 1	B5・4頁	2,500	
" 第27号	60. 7. 1	"	2,500	
" 第28号	60. 10. 1	"	2,500	
岐阜県博物館報 第8号	60. 7. 1	B5・28頁	1,500	
岐阜県博物館調査研究報告 第7号	61. 3. 31	B5・79頁	1,000	
昭和60年度岐阜県博物館催しもの案内	60. 4. 1	B4・表裏	3,000	
特別展 図録				(友の会 増刷)
濃飛の縄文時代	60. 4. 23	B5・58頁	300	300
美濃の刀剣	60. 10. 8	B5・66頁	300	600
特別展 リーフレット				
鉱物の世界	60. 7. 16	A6・8頁 絵ハガキ4枚	1,200	3,000
特別展 ポスター				
濃飛の縄文時代	60. 4. 23	B3	1,700	
鉱物の世界	60. 7. 16	B3	1,700	
美濃の刀剣	60. 10. 8	B3 タテ	1,700	
資料紹介展 図録・リーフレット				
古式鉄砲	61. 3. 2	B5・14頁	300	
ふるさとの魚	60. 12. 15	B4・1枚	5,000	

## (5) 日曜映写会(16mm・スライド・VTR)

期 間	題 名	観 覧 者 数
4月23日～6月9日	百年公園と博物館、ようこそ博物館 縄文遺跡をたずねて	1,326
7月16日～9月8日	百年公園と博物館、ようこそ博物館 あゆ	867
10月8日～11月24日	百年公園と博物館、刀匠、鉄と炎の火 鉄と火と匠と(関の日本刀) 東海の鳥	1,898

## (6) 博物館実習生受け入れ

愛知学院大学1名 静岡大学2名の計3名を、8月19日より29日まで10日間、実習指導した。

## (7) 友の会

「博物館事業の普及を図るとともに、会員相互の教養を高め、親睦を図ること」をめざして発足した友の会も3年目を迎えた。今年度の活動を総括すると、「基礎を固めた年であった」と言えよう。

第1点は、会則を改正して役員組織を充実させたことである。新設した理事、監事をはじめ役員を各地にバランスよく配し、地区代表的性格をもたせ、運営の円滑化を図った。

第2点は、特別展図録、絵はがき等の諸資料の作成、頒布を通して、会の財政的基盤を固めたことである。

第3点は「魅力ある友の会づくり」をめざして主催事業を多くしたことである。活動内容の充実の基礎固めに結びつくと考え、探訪の旅、他館見学、親子唄づくり教室等を企画実施した。これらの活動を通して「仲間と共に学ぶ楽しさ」を体験され、相互の親睦も深まったと思われる。60年11月には、会員数が245名に達した。

第4点は、友の会報を充実させたことである。発行回数を年4回にし、内容面では、花の歳時記、博物館めぐり等の連載物を始めた。会報を通して、友の会への関心が高まり、会員相互の心の絆も強まったと思う。

問題点としては、「博物館事業の普及を図る」ということについて、何をすればよいのか、検討が不十分で、具体的な活動がやや乏しかったことである。

会務の運営面では、博物館職員へ依存しがちであり、会員による運営、事務局のあり方等々

解決すべき課題が残っている。

○昭和60年度友の会事業

〈 会 議 〉

総会 5.12 臨時総会 11.10 役員会 10.3・3.9

〈 探訪の旅、他館見学 〉

- 歴史探訪（西濃の寺社） 6.16 28名参加
- 自然探訪（中濃の自然） 9.23 28名 "
- 県美術館見学（ルドン展） 10.26 20名 "
- 岐阜市歴史博物館見学 1.18 10名 "
- 内藤記念くすり博物館見学 3.1 21名 "

〈 友の会報発行 〉

- 第3号 4.1 300部 B5 4頁
- 第4号 7.1 500部 A5 4頁
- 第5号 10.1 500部 A5 4頁
- 第6号 1.1 500部 A5 6頁

〈 資料等作成頒布 〉

- 特別展図録 「濃飛の縄文時代」 300部
- 「美濃の刀剣」 600部
- 絵はがき 「鉾物の世界」 3,000組
- 「岐阜県博物館」 5,000組
- 「ひるがの」「展示案内」等

〈 その他 〉

- 親子唄づくり教室 12.12 48名参加
- 会員助成（入館料補助）
- 会員証作成
- アンケート実施（61年度事業計画）

○昭和60年度友の会役員

会 長 内 木 茂

副会長 熊田光久、長屋一男、廣田照夫

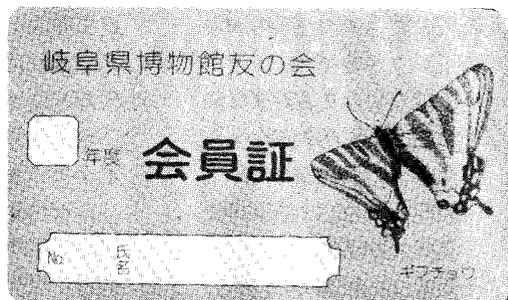
○昭和60年度会計

収入 1,248,753円

支出 897,580円



親子唄づくり教室



友の会会員証

## 8. 図書資料寄贈者芳名一覧

(昭和60年4月1日～  
昭和61年3月31日)

(博物館関係)

国立民族学博物館  
国立歴史民俗博物館  
国立科学博物館  
国立科学博物館附属自然教育園  
東京国立博物館  
憲政記念館  
京都国立博物館  
岐阜県美術館  
岐阜県歴史資料館  
岐阜市歴史博物館  
内藤記念くすり博物館  
岐阜市少年科学センター  
岐南町歴史民俗資料館  
大垣市歴史民俗資料館  
土岐市美濃陶磁歴史館  
瑞浪陶磁資料館  
瑞浪市化石博物館  
可児郷土歴史館  
北海道開拓記念館  
青森県立郷土館  
岩手県立博物館  
岩手県立農業博物館  
東北歴史資料館  
秋田県立博物館  
山形県立博物館  
栃木県立博物館  
群馬県立歴史博物館  
埼玉県立歴史資料館  
埼玉県立民俗文化センター  
埼玉県立さきたま資料館  
埼玉県立博物館  
埼玉県立自然史博物館  
千葉県立安房博物館  
千葉県立大利根博物館  
千葉県立房総風土記の丘  
千葉県立総南博物館  
千葉県立上総博物館  
東京都高尾自然科学博物館

神奈川県立博物館  
神奈川県立自然保護センター  
神奈川県立金沢文庫  
石川県立郷土資料館  
石川県立白山自然保護センター  
福井県立博物館  
福井県立若狭歴史民俗資料館  
山梨県立考古博物館  
愛知県陶磁資料館  
滋賀県立風土記の丘資料館  
滋賀県立琵琶湖文化館  
京都府立丹後郷土資料館  
京都府立総合資料館  
兵庫県立歴史博物館  
奈良県立民俗博物館  
和歌山県立自然博物館  
岡山県立博物館  
山口県立博物館  
鳥取県立博物館  
徳島県立博物館  
香川県自然科学館  
瀬戸内海歴史民俗資料館  
愛媛県立博物館  
佐賀県立博物館  
大分県立佐風土記の丘歴史  
民俗資料館  
宮崎県総合博物館  
鹿児島県立博物館  
鹿児島県歴史資料センター  
黎明館  
沖縄県立博物館  
北見市立北見郷土博物館  
釧路市立郷土博物館  
斜里町立知床博物館  
市立函館博物館  
穂別町立博物館  
ひがし大雪博物館  
苫小牧市博物館  
八戸市博物館  
遠野市博物館  
仙台市歴史民俗資料館  
仙台市博物館

日立市立郷土博物館  
小山市立博物館  
浦和市立郷土博物館  
市立市川考古博物館  
船橋市郷土資料館  
千葉市加曽利貝塚博物館  
館山市立博物館  
君津市立久留里城址資料館  
豊島区立郷土資料館  
町田市立博物館  
八王子市立郷土資料館  
福生市郷土資料室  
大田区立郷土博物館  
鎌倉国宝館  
川崎市立産業文化会館博物館  
箱根町立大涌谷自然科学館  
横須賀市博物館  
平塚市博物館  
両津市博物館  
相川郷土博物館  
長岡市立科学博物館  
富山市科学文化センター  
富山市考古資料館  
小松市立博物館  
福井市立郷土歴史博物館  
福井市立自然科学博物館  
大町山岳博物館  
信濃町立野尻湖博物館  
日本民俗資料館松本市立博物  
館  
長野市立博物館  
静岡市立登呂博物館  
沼津市明治史料館  
沼津市歴史民俗資料館  
浜松市博物館  
富士市立博物館  
豊橋市地下資源館  
豊田市郷土資料館  
名古屋市博物館  
愛知県文化会館  
三好町立歴史民俗資料館  
名古屋市見晴台考古資料館

鳳来寺山自然科学博物館  
藤原岳自然科学館  
尾鷲市立中央公民館郷土室  
宇治市歴史資料館  
京都市考古資料館  
大阪市立電気科学館  
東大阪市立郷土博物館  
大阪市博物館  
大阪市立自然史博物館  
堺市博物館  
和歌山市立博物館  
西宮市立郷土資料館  
神戸市立博物館  
伊丹市立博物館  
笠岡市立竹喬美術館  
市立津山郷土館  
津山洋学資料館  
倉敷市立自然史博物館  
広島市安佐動物公園  
広島市郷土資料館  
宮島町立宮島歴史民俗資料館  
秋芳町立秋吉台科学博物館  
松山市立子規記念博物館  
福岡市立歴史資料館  
北九州市立考古博物館  
北九州市立歴史博物館  
北九州市立児童文化科学館  
アイヌ民俗博物館  
遠野市民センター文化部  
福島県文化センター  
福島市児童文化センター  
会津民俗館  
致道博物館  
国際基督教大学博物館  
湯浅八郎記念館  
たばこと塩の博物館  
東京農工大学工学部附属繊維  
博物館  
家具の博物館  
紙の博物館  
根岸競馬記念公苑  
馬の博物館

横浜海洋科学博物館  
船の科学館  
東海大学海洋科学博物館  
海の博物館  
久能山東照宮博物館  
熱田神宮宝物館  
伊良湖自然科学博物館  
明治村  
岩田洗心館  
日本モンキーセンター  
リトルワールド  
霊山歴史館  
戦陣武具資料参考館  
平安博物館  
大阪人権歴史資料館  
日本はきもの博物館  
国立西洋美術館  
国立国際美術館  
山梨県立美術館  
新潟県立美術博物館  
群馬県立近代美術館  
静岡県立美術館  
三重県立美術館  
滋賀県立近代美術館  
奈良県立美術館  
長崎県立美術博物館  
熊本県立美術館  
渋谷区立松濤美術館  
世田谷美術館  
稲沢市立荻須記念美術館  
豊橋市美術博物館  
京都市美術館  
鹿児島市美術館  
西武美術館  
サントリー美術館  
ベルナルド・ビュフェ美術館  
〔博物館協会〕  
日本博物館協会  
全日本博物館学会  
全国科学博物館協議会  
静岡県博物館協会  
鳥取県博物館協会

愛媛県博物館協会  
宮島町博物館協会  
広島市動物園協会  
〔教育委員会関係〕  
岐阜県教育委員会  
岐阜県教育センター  
岐阜県農業技術教育センター  
岐阜県工業技術センター  
岐阜県情報処理教育センター  
岐阜県同和教育協議会  
岐阜県企画部統計課  
岐阜県関ヶ原青少年自然の家  
岐阜県PTA連合会  
岐阜県文化課  
各務原市教育委員会  
美濃加茂市教育委員会  
可児市教育委員会  
土岐市教育委員会  
恵那市教育委員会  
多治見市教育委員会  
中津川市教育委員会  
高山市教育委員会  
神戸町教育委員会  
藤橋村教育委員会  
池田町教育委員会  
白川町教育委員会  
山岡町教育委員会  
美並村教育委員会  
白鳥町教育委員会  
金山町教育委員会  
下呂町教育委員会  
萩原町教育委員会  
関市役所  
輪ノ内町役場  
平田町役場  
高鷲村役場  
東濃教育事務所学校教育課  
土岐少年自然の家  
土岐市総務部企画財政課  
古川町商工観光課  
岐阜市編纂委員会  
関市編纂委員会

可児市編纂委員会  
恵那市編纂委員会  
平田町編纂委員会  
川島町編纂委員会  
高富町編纂委員会  
本巣町編纂委員会  
白川町編纂委員会  
萩原町編纂委員会  
岐阜市文化センター  
大垣市文化会館  
美濃加茂市文化会館  
多治見市文化会館  
垂井町文化会館  
岐阜県立図書館  
福島県教育委員会  
埼玉県教育委員会  
東京都教育委員会  
福井県教育委員会  
福井県教育庁文化課  
愛知県教育委員会  
奈良県教育委員会  
京都府教育委員会  
広島県教育委員会  
長崎県教育委員会  
弘前市教育委員会  
いわき市教育委員会  
いわき市教育文化事業団  
福生市教育委員会  
世田谷区教育委員会  
高崎市教育委員会  
相模原市教育委員会  
浜松市教育委員会  
沼津市教育委員会  
名古屋市教育委員会  
岡崎市教育委員会  
春日井市教育委員会  
瀬戸市教育委員会  
豊橋市教育委員会  
藤原町教育委員会  
松原市教育委員会  
尼崎市教育委員会  
広島市教育委員会

松山市教育委員会  
三宅村教育委員会  
西紀・丹南町教育委員会  
忠類村役場  
〔学校関係〕  
各務原市立鶴沼第三小学校  
各務原市立陵南小学校  
笠松町立松枝小学校  
郡上八幡中学校  
岐阜第一女子高等学校  
岐阜三田高等学校  
大垣東高等学校  
羽島高等学校  
本巣高等学校  
不破高等学校  
海津北高等学校  
郡上高等学校  
郡上北高等学校  
多治見高等学校  
多治見工業高等学校  
岐阜聾学校  
岐阜県高等学校長協会  
岐阜県高等学校生物教育研究会  
岐阜県高校地学研究会  
岐阜大学教育学部  
岐阜大学農学部  
岐阜女子短期大学  
岐阜経済大学  
聖徳学園女子短期大学  
中部女子短期大学  
東海女子大学  
京都大学霊長類研究所  
国学院大学文学部考古学研究室資料館  
国学院大学博物館研究室  
武蔵野音楽大学楽器博物館  
図書館情報大学  
明治大学  
多摩美術大学  
神奈川大学日本常民文化研究所  
静岡大学理学部地球科学教室

愛知大学文学部  
市邨学園短期大学人文科学研究会  
仏教大学歴史研究所  
立教大学博物館学研究室  
同志社大学博物館学研究室  
関西大学考古学等資料室  
〔研究機関・出版社・その他〕  
奈良国立文化財研究所飛鳥資料館  
元興寺文化財研究所  
東京都埋蔵文化財センター  
神奈川県埋蔵文化財センター  
千葉県埋蔵文化財センター  
静岡県埋蔵文化財調査研究所  
滋賀県埋蔵文化財センター  
福岡市埋蔵文化財センター  
世田谷区民俗調査団  
武蔵国分寺関連遺跡調査団  
日野市栄町遺跡調査会  
八幡原遺跡調査団  
中里遺跡調査団  
田端不動坂遺跡調査団  
相模原市横山磯部遺跡調査団  
富士見町遺跡調査会  
広島県草戸千軒町遺跡調査研究所  
民具製作技術保存会  
黒川古文化研究所  
極楽寺宗教文化研究所  
日本実生研究会  
古文化財科学研究会  
農村文化研究所  
相模原地形・地質調査会  
置賜民俗学会  
地質調査所  
日本美術刀剣保存協会  
東海三県地盤沈下調査会  
東京貝類同好会  
行動と文化研究会  
埼玉 翠の会  
日本イヌワシ研究会

行動美術協会	民の会	竹中重寿
信州書芸会	岐阜県観光連盟	土屋一
美術文化史研究会	大垣市文化連盟	筒井宏
美術研究会	月刊西美濃わが街社	土井裕夫
名古屋哺乳類研究会	北白川書房	中島実
名古屋植物防疫所	岐阜ローンテニスクラブ	野平照夫
名古屋営林局	朝日新聞社	早野久光
音羽山清水寺	刀剣春秋新聞社	藤原雄
高校地理研究会	海外学人月刊社	船越進太郎
熱田神宮宮庁	東海民報社	堀信雄
京都服飾文化研究財団	至文堂	前沢輝政
ポーラ伝統文化振興財団	吉川弘文館	宮野伸也
観光資源保護財団	ニューサイエンス社	宮崎惇
宮本記念財団	教育社	三島柳雨
日展	啓林館	水野吉昭
名古屋美術倶楽部	東京書籍株式会社	武藤暁生
岐阜県水産試験場	東京美術	武藤静雄
岐阜県農業試験場	郷土出版社	森田文雄
岐阜県工業試験場	宮内庁書陵部	諸橋轍次
岐阜県金属試験場	岩波書店	山下勘治
岐阜県文化財保護協会	宮内庁正倉院事務所	
岐阜県文化財保護協会大和村 支部	松坂屋 文化庁	
養老町文化財保護協会	〔個人〕(敬称略)	
岐阜県歴史研究会	石原伝兵衛	
岐阜県郷土資料研究会	市原信治	
岐阜県昆虫同好会	池田愛也	
ふるさと白川研究会	石田鎌一	
徳山村の自然と歴史と文化を 語る集い	大森清男	
日本野鳥の会岐阜支部	大倉正敏	
中山道加納宿文化保存会	小野木三郎	
欲斎研究会	加納白鶴	
岐阜県哺乳動物調査研究会	梶浦敬一	
郡上史談会	笠原芳雄	
岐阜県公害研究所	北村利憲	
霊山顕彰会岐阜県支部	桜井欽一	
岐阜県野鳥の会	Kohei Sawada	
美濃民俗文化の会	柴田桂章	
飛騨郷土学会	清水克己	
岐阜県デザイン振興会	関谷美智男	
長良川河口ぜきに反対する市	竹内重信	
	竹石耕美	